

「米国における手話通訳研究—社会言語学モデルを中心に」

白澤 麻弓（筑波技術大学）

ある言語から別の言語への翻訳を同時に行う同時通訳の一形態として、起点言語または目標言語のどちらかに手話を用いる手話通訳があげられる。手話通訳には、音声言語による同時通訳と同様に、高度に精緻化された技術と知的作業が求められることが知られており、このプロセスや技術の解明に向けて、さまざまな研究が行われている。特に、こうした研究をリードしていった米国では、手話通訳という現象を社会言語学的に分析し、求められる技術や作業の内容を明らかにするための研究をベースに、さまざまな研究が行われている。本講演では、こうした米国の手話通訳研究の基礎を築いたといわれている D. Cokely、C. Roy、M. Metzger らの研究を中心に紹介するとともに、近年の手話通訳研究の動向について述べる。